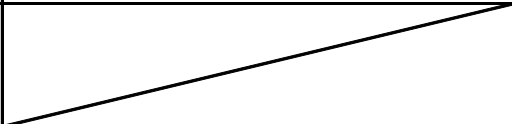
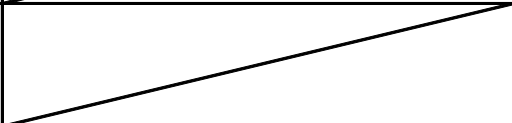
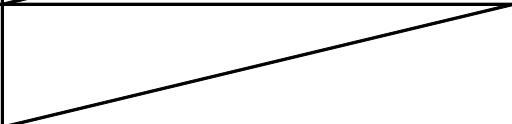


## 児童発達支援又は放課後等デイサービス事業に係る自己評価結果公表用

公表日：2020年 7月 26日

事業所名：GreenWood

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
環境・体制整備	1 利用定員に応じた指導訓練室等スペースの十分な確保	適切なスペースの確保が出来ている。室内だけでなく、庭や施設の隣にある河原へ行き自然の中でも活動を行っている。	室内や庭でも安全に活動できていると思う。 はい94%、どちらともいえない6%	引き続き整理整頓を心がけ、利用者が過ごし易いようにスペースを確保していく。河原以外の活動場所も見つけていきたい。
	2 職員の適切な配置	指定基準を満たした職員を配置している。(常時、常勤3名)また、利用者の特性に合わせて、非常勤の職員も配置している。	十分な人数で対応してもらっていると思う。 はい94%、わからない6%	引き続き必要な人員配置を維持し、利用者の人数や様子に合わせて加配増員し、細やかな支援を行う。
	3 本人にわかりやすい構造、バリアフリー化、情報伝達等に配慮した環境など障害の特性に応じた設備整備	施設内のバリアフリーは整っていない。安全を考え、飛び出し防止用に窓、ドア、門扉に鍵を追加し、障子のガラス戸の部分をアクリル板に取り換えた。	はい69%、どちらともいえない6%、いいえ6%、わからない19%	今後も、随時利用者に合わせて、環境設備を整えていく。
	4 清潔で、心地よく過ごせ、子ども達の活動に合わせた生活空間の確保	毎日活動後に掃除と除菌を行っている。季節に合わせた壁面飾りを利用者と一緒に飾っている。手先を使うおもちゃを増やし、その日の利用者に合わせておもちゃや備品を出している。	はい88%、わからない12%	引き続き、消毒の徹底と利用者に合わせて室内環境を整えていく。
業務改善	1 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)への職員の積極的な参画	普段から職員間のコミュニケーションを大事にし、意見を出しやすい関係を心がけている。利用者の意向を把握する為、年1回保護者へのアンケート調査を行い業務改善を行っている。		年間、月間の明確な目標を設定し、より良い事業所にしていきたい。
	2 第三者による外部評価を活用した業務改善の実施	本部と連携し、体制づくりを進めている。		今後も本部との連携を進めていく。
	3 職員の資質の向上を行うための研修機会の確保	研修案内の回覧を行い、積極的に研修に参加している。内部研修も行っている。また、図書やマスメディアを通しての勉強も各自行っている。		引き続き職員の資質向上を目指し、研修に参加していく。研修報告や意見交換も積極的に行っていく。
適切な支援の	1 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の作成	保護者との面談を行い、願いや悩みを聞き取っている。また、相談支援事業所からも利用者のニーズを聞き取り、相談支援事業所作成の児童支援利用計画書とも連動させて作成している。	子どもに合った計画を立ててもらっている。 はい100%	
	2 子どもの状況に応じ、かつ個別活動と集団活動を適宜組み合わせた児童発達支援又は放課後等デイサービス計画の作成	保護者から個別の悩みや集団内での悩みを聞き取り、個々の特性に合わせた支援計画を作成している。	はい100%	引き続き相談支援事業所との連絡を密にし、利用者一人ひとりに合わせた支援計画を作成していく。

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
提供	3 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画における子どもの支援に必要な項目の設定及び具体的な支援内容の記載	利用者それぞれの悩みに合わせて、課題、目標、支援内容について具体的に記載している。	はい100%	
適切な支援の提供(続き)	4 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画に沿った適切な支援の実施	職員全員が、相談支援事業所で作成された児童支援利用計画書と、当事業所で作成した支援計画書の両方に目を通し、計画書の内容に沿った支援を心がけている。	はい94%、わからない6%	引き続き職員で情報共有し、細やかな支援を行っていく。利用者ごとに、その日に行う訓練や支援に必要な物を入れておくトレイを用意するなどの工夫をする。
	5 チーム全体での活動プログラムの立案	個々の特性に合わせた無理のないもの、かつ利用者が一緒に楽しめるものになるよう指導員で毎週、活動内容についての話し合いを行っている。児童発達支援管理責任者にも内容報告をし、より良いプログラムになるよう職員全員で考えている。		引き続き充実したプログラムになるよう、十分な話し合いを行う。
	6 平日、休日、長期休暇に応じたきめ細やかな支援	学校の下校時刻や保護者の用事などにも合わせて、利用日や送迎を組んでいる。また、年数回の日帰り・お泊りキャンプを行い、親子で参加可能な活動の場を設けている。		引き続き利用者のニーズを聴き取りながら、支援を行っていく。
	7 活動プログラムが固定化しないような工夫の実施	季節の行事を取り入れ、週ごとのプログラムを提供している。同じ週に複数回利用する利用者には、2回目以降は少し内容を変えた活動を提供している。	発達がゆっくりなので、固定化は仕方ないと思っている。 はい81%、どちらともいえない6%、わからない13%	活動内容や利用者の制作物をホームページや口頭で保護者に伝えていき、活動の様子を知ってもらおう。
	8 支援開始前における職員間でその日の支援内容や役割分担についての確認の徹底	週1回、利用者についての共有ミーティングを行っている。活動前に日課の流れや支援の内容について話し合いを行っている。		その日の支援についてもっと具体的に話し合いを行う。また、薬の持参・使用方法、アレルギーについて情報共有し、職員間で確認を行う。アレルギーがある利用者には、おやつ提供時に二重チェックを徹底する。
	9 支援終了後における職員間でその日行われた支援の振り返りと気付いた点などの情報の共有化	その日の記録を記入しながら気になったことを話し、情報共有をしている。		引き続き職員間で情報共有をしていく。
	10 日々の支援に関する正確な記録の徹底や、支援の検証・改善の継続実施	活動後に必ず個別記録を記入している。誰が読んでも支援に活かせるよう、詳しく記録するよう心がけている。また、利用者情報を共有し、支援方法などを話し合っている。		引き続き分かりやすく丁寧な記録を行う。

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
11	定期的なモニタリングの実施及び児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の見直し	半年に1回保護者との面談を行っている。活動中の利用者の様子を保護者に伝え、前回の支援計画の振り返りと悩みや困りごとを聴き取っている。課題の達成度、新たな気づきや課題について、保護者同意のもと作成している。新しい支援計画の内容については職員で話し合い、まとめている。		引き続き細やかな聴き取りを行い、個々の利用者に合わせた計画書を作成していく。
1	子どもの状況に精通した最もふさわしい者による障害児相談支援事業所のサービス担当者会議へり参画	担当者会議に毎回参加している。相談支援事業所と、電話でのモニタリングも行っている。その内容を他の職員にも報告し、情報共有をしている。		引き続き密に情報共有し、支援につなげていく。
2	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援の実施	医療的ケアが必要な方、重度の方の受け入れを行っていない。		
3	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制の整備	医療的ケアが必要な方、重度の方の受け入れを行っていない。		
4	児童発達支援事業所からの円滑な移行支援のため、保育所や認定こども園、幼稚園、小学校、特別支援学校(小学部)等との間での支援内容等の十分な情報共有	担当者会議に小学校の担任の先生が出席される時は情報共有している。相談支援事業所とも密に連絡をとり、情報共有している。		今後も取り組んでいきたい。
5	放課後等デイサービスからの円滑な移行支援のため、学校を卒業後、障害福祉サービス事業所等に対するそれまでの支援内容等についての十分な情報提供	現在、該当する利用者がいないので、行っていない。		今後、円滑な移行支援に関して学びを深めていきたい。
6	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携や、専門機関での研修の受講の促進	随時、職員に研修案内を提示し、出来るだけ研修に参加している。		今後も積極的に参加していきたい。
7	児等発達支援の場合の保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、放課後等デイサービスの場合の放課後児童クラブや児童館との交流など、障害のない子どもと活動する機会の提供	現在交流の機会はない。	どのような活動をしているのか、子どもから聞いたことがない。	今後、計画し取り組んでいきたい。

関係機関との連携

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
	8 事業所の行事への地域住民の招待など地域に開かれた事業の運営	現在行っていない。	はい19%、どちらともいえない12%、いいえ25%、わからない44%	今後、計画し取り組んでいきたい。
保護者への説明責任・連携支援	1 支援の内容、利用者負担等についての丁寧な説明	支援に関して、その日の出来事を保護者に口頭や連絡帳で伝えている。またモニタリングの面談の際に詳しく説明している。利用者負担に関しては、契約時に説明している。	はい100%	どの職員に尋ねても答えてもらえるという安心感と雰囲気をつくっていく。また、わかりやすい説明を心がける。
	2 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画を示しながらの支援内容の丁寧な説明	モニタリング時に、保護者と計画書を見ながら支援について話し合い、説明を行っている。	はい100%	引き続き保護者のニーズを聴き取り、丁寧に説明することを心がける。
	3 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対するペアレント・トレーニング等の支援の実施	昨年度は2回、親子で参加可能な研修を行った。	はい19%、どちらともいえない19%、いいえ19%、わからない43%	保護者向けの研修の回数を増やし、随時、発信していく。
	4 子どもの発達の状況や課題について、日頃から保護者との共通理解の徹底	連絡帳や送迎の際に、保護者から話を聴いたり、事業所での様子を伝えている。	家、学校の様子を伝えて、デイでの様子を教えてもらっている。 はい100%	引き続き保護者からの話を丁寧に聴いていく。必要な利用者には、活動後に電話でその日の様子を保護者に伝えていくことなどしていきたい。
	5 保護者からの子育ての悩み等に対する相談への適切な対応と必要な助言の実施	面談や送迎時に保護者とコミュニケーションをはかり、悩み事を聴いた時は職員間で話し合い、支援内容を確認している。	はい94%、どちらともいえない6%	当団体で行っている子育て向けの講演会実施情報の提供も行っていく。
	6 父母の会の活動の支援や、保護者会の開催による保護者同士の連携支援	現在行っていない。	父母の会があれば参加したい。 はい12%、どちらともいえない6%、いいえ38%、わからない44%	今後取り組んでいきたい。
	7 子どもや保護者からの苦情に対する対応体制整備や、子どもや保護者に周知及び苦情があった場合の迅速かつ適切な対応	苦情対応の体制を整えており、契約時に説明している。	はい69%、どちらともいえない6%、わからない25%	苦情があった際は、職員間で情報共有し、迅速に、真摯に対応していく。
	8 障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮	個別に電話や連絡帳に記入したり、送迎時に口頭で伝えるようにしている。	毎回の連絡帳で子どもの1日の様子を細かく知ることができている。 はい100%	引き続き丁寧に行っていく。

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容	
	9	定期的な会報等の発行、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報についての子どもや保護者への発信	行事予定についてはお便りでお知らせしているが、活動概要等、定期的な情報発信は行っていない。	HPや会報はあるの？ 個人情報のこともあるので、なくてもいいと思う。 はい56%、どちらともいえない12.5%、 いいえ12.5%、わからない19%	今後、ホームページやブログで活動概要を発信していきたい。
	10	個人情報の取扱いに対する十分な対応	個人情報について契約時に説明している。職員は誓約書に署名している。個人情報は鍵のある棚で管理している。	はい94%、わからない6%	今後も十分に注意していきたい。
非常時等の対応	1	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルの策定と、職員や保護者への周知徹底	マニュアルを作成し、年1回見直しを行い、室内に掲示している。	はい69%、どちらともいえない12%、 わからない19%	今後も適宜見直しを行い、改訂したら保護者への配布を行っていく。
	2	非常災害の発生に備えた、定期的に避難、救出その他必要な訓練の実施	年2回(9月、3月)地震編と火災編の避難訓練を行っている。安全に全員が避難できる方法を利用者と一緒に考え、確認している。	防災週間を定期的に取り入れて欲しい。 はい56%、いいえ6%、わからない38%	職員のための訓練も行っていきたい。
	3	虐待を防止するための職員研修の機会の確保等の適切な対応	虐待防止に関して、契約時に保護者に説明をしている。職員向けに本部での研修を年1、2回行っている。		年1回職員間で虐待について、再確認のミーティングを行ってほしい。外部の研修にも参加していきたい。
	4	やむを得ず身体拘束を行う場合における組織的な決定と、子どもや保護者に事前に十分に説明・了解を得た上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画への記載	現在、身体拘束が必要な利用者はいない。身体拘束に関して、契約時に保護者に説明している。		自傷他害について、必要な場合は、事前に保護者に確認を行い、書面でも内容確認できるようにする。
	5	食物アレルギーのある子どもに対する医師の指示書に基づく適切な対応	現在、指示書が必要な重度のアレルギーがある利用者はいない。		重度のアレルギーがある利用者の場合は医者からの指示書をもらい、関係機関と連携していく。軽度の利用者も食べ物提供時には、複数の職員で確認していく。

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
6	ヒヤリハット事例集の作成及び事業所内での共有の徹底	ヒヤリハット報告書を作成し、職員で情報共有を行い、再発防止につとめている。毎日活動前に目視での安全点検をしている。		月1回、施設の安全点検を細かく行っていく。